

埼玉県飯能市（視察日：令和4年10月26日） タブレット端末の導入と活用について

1 飯能市の概要

埼玉県の南西部に位置し、地形は山地、丘陵地、台地に分けられる。首都圏の近郊住宅都市となっている。平成17年に「森林文化都市」、平成31年に「平和都市」宣言をしている。人口約79,000人、議員数19人。

2 視察目的

議会改革を推進する中において、議会のICT化の必要性が議論されるようになり、特にタブレット端末の導入の必要性が高まってきた。先進議会より導入に至るまでの経緯や端末等の選定の事務的な流れ、端末導入後の議員の反応や感想について学び、小千谷市議会のデジタル化につなげる。

3 視察内容

平成22年6月、議会改革検討会が設置され、様々議論する中において、平成23年3月に東日本大震災が起こり、資源を大切にする当たり前の原点が見直された。それがICT化のきっかけとなる。

3-1 議会の検討内容

- ① 全員協議会のペーパーレス化（LAN）
- ② 議会内の情報伝達（メール） 議員 ↔ 事務局 各種文書伝達
- ③ 危機管理上の緊急連絡（メール） 災害時の緊急通信
- ④ 政務調査活動（インターネット） 先進事例調査
- ⑤ 各種資料の閲覧（LAN） 各種計画等、既存電子データ利用
- ⑥ 議場への持ち込みを可能とする

3-2 飯能市議会の採用企業

システム：Side Books クラウド本棚 東京インタープレイ株式会社

機器：iPad

通信：NTTドコモ

3-3 議会の費用に関して

- (1) 第3世代（令和3年度）導入費用合計：約318万円
 - ①初期費用 約33万円 タブレット端末等設定費用
 - ②維持費用 約286万円 通信費・クラウド使用料等約264万円
セキュリティソフト・ネットワーク保守委託約22万円
- (2) 1台あたり通信費：年額約51,600円、月額約4,300円
- (3) 費用負担：（約55,440円の内訳）（SPPM 330円/月含む）

公費	5/6	約46,200円
自己負担	1/6	約9,240円
- (4) 端末機器費用：レンタル（48か月）月額695円

3-4 タブレット導入効果

- (1) 費用削減効果額 年間約 210 万円
 - ① 全員協議会資料削減額 24 万円
 - ② 本会議会議録冊子廃止：印刷製本費 約 186 万円
- (2) 紙使用量削減枚数 年間約 10 万枚
 - ① 全員協議会資料 約 24,000 枚削減
 - ② 本会議会議録冊子分 74,400 枚削減
- (3) 上記以外の導入効果
 - ① 環境負荷低減
 - ② 経費節減、事務改善
 - ③ 情報伝達の迅速化
 - ④ 政務活動充実
 - ⑤ 危機管理対応の向上

3-5 導入後の利用状況

- (1) 全員協議会等各種議会会議のペーパーレス化
- (2) 本会議一般質問時での効果的な活用
- (3) 議会内の情報伝達
 - ① 議員⇄ 事務局各種文書のメール送信
 - ② 議会⇄ 執行部各種報告事項のメール送信
 - ③ カレンダー機能によりスケジュールの共有
- (4) 災害時の活用
- (5) 議案書・予算書等の閲覧
- (6) 各種書類の整理・保存

3-6 利用のルール化

- (1) 飯能市議会情報端末機使用基準
使用制限、禁止・遵守事項、セキュリティ対策、
必要な事項を規定
- (2) 飯能市議会情報端末機使用範囲等
使用対象会議、ペーパーレス化対象会議等を規定

4 所 感

タブレット導入効果や導入後の利用状況を確認すると、様々な導入効果があるようだ。紙を使わないことによる費用の効果は思った以上にある。また、一般質問の際、タブレットを効果的に利用している。現場写真などの資料をモニターに映し出すことにより、より分かりやすい質問となっている。当市にはモニターは現在ないが、近い将来において飯能市のようになることを望む。導入の際のシステム等に関してアドバイスをいただいた。業者はデモをしてくれるので、利用したほうが良いとのこと。飯能市議会で使用している Side Books は議会に特化したクラウドで、非常に便利でサポート体制も充実しているとのこと。高齢者のタブレット使用に関しては、私としては心配なところもあったが、研修等により、また、慣れている議員のサポートがあれば問題ないようである。また、カレンダー機能によりスケジュールの共有が可能となり、災害時の情報共有にも役立つ。行政側と同時に導入することを勧められた。

茨城県取手市（視察日：令和4年10月27日）

タブレット端末の導入と活用について

オンライン会議の取り組みについて

1 取手市の概要

取手市は、茨城県の南端に位置し、市域は総面積69.94平方キロメートル、東西14.3キロメートル、南北9.3キロメートルであり、利根川とその支流である小貝川の二大河川が流れる水と緑に恵まれた地域。茨城県の南部の玄関口としてばかりでなく、東京、成田、つくばを結ぶ三角形のほぼ中央に位置していることから交通の要となっており、首都圏の都市の中でも、交通の利便性と自然環境に恵まれた都市環境をもっている。

2 視察目的

小千谷市でも導入を見据えて、先進の取手市のタブレット端末導入と活用、オンライン会議の取り組みについて視察した。

3 視察内容

開かれた議会、議員活動めざして先進的な議会活動に取り組んでいるとのこと。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、ICT化が一般に一気に広がった。議会のオンライン化に関連して官民学によってデジタル化を進めているということで視察した。取手市が導入した一番のきっかけは、採決システムの故障で新規に採決システム導入を検討する中で採決システムだけで800万円から1000万円するとのことなので一気にタブレット端末導入の検討が始まり、採決システムも含んだ費用が安上がりで、オンライン会議の取り組みも行うことになった。(オンライン会議はあくまでも議員個人が何らかのやむを得ない理由で本会議場などに来られない場合の活用です。)様々な法的ルール作り、条例の改廃、アプリや機器の課題など様々な知見を結集するために、官、民、学の連携を行っている。

予算、決算議案などほぼ基本的にペーパーレス化している。最初不安を持ったデジタル活用が苦手な議員には、最低限利用できるまでしっかりサポートしているという。導入後、議員からの不満の声は聞かれないという。タブレット採決機能がつき、オンラインでも採決参加が可能。議会開催中、現場確認を移動カメラでライブ配信も行っているなどの工夫も出来る。市当局、議会事務局も省力化が出来て議会共々良好な成果を享受しているという報告でした。会議の発言文字興し、(議事録)も年間100万円ほどでかなり正確な文字興しが可能だと言うことです。

4 所感

取手市の視察を終えて、小千谷市議会も市当局も文書等のデジタル化で市の財政的にも、職員、事務局の省力化にも役立ち、文明の利器は正しく利用すれば大きな成果を得られると感じました。執行部側と議会同時に運用することが望ましいと感じた。そのためには両者による共通認識は必須である。デジタル化推進のため先進的なところの知見を生かした様々な法的ルール作り、条例の改廃、アプリや機器の課題などの克服が必要になる。